

# 教育改革

ほし ふゆひこ  
**林 冬彦** 議員



## Q 背景にある考えは何か

## A 変化の激しい時代を生き抜く力

**議員** 本市で進む教育改革の背景にある考えと特徴は何か。

**教育部長** 「これからの変化の激しい時代を生き抜くためにはどのような力が必要か」という問いを原点に、経験と勘と気合による従来の教育実践から脱却した「エビデンスに基づく教育政策」や社会の知のリソースを活用する「産官学民との連携」を重視している。70を超える企業、大学、公的機関等と連携し、効果的な指導方法に関する共同研究、教員研修、企業等が開発した新たな学びのためのカリキュラムやICT機器の導入、特別支援教育等での多角的な取り組みの研究や実践を行っている。ウィーンの関係構築により、その多くがほぼ無償となっている。

**議員** 多くの応援があるためには、市政が法にのっとり、「公平公正」に運営されていることが極めて重要。新年度予算の教育委員会関連には、市長の出身校である日本体

育大学を含めた他大学や企業等との連携を含め、講師謝礼として総額百万円が計上された。地方教育は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」にのっとり、市長であっても教育の内容や連携先を指示できない。本市の教育は国からも注目されているだけに、厳しい目で見られていることを意識し、百万円の案分についても教育委員会が公平公正に決定することが重要である。

**とだっ子の教育の向上を目指して** (広報戸田市平成 30年5月1日号)

**教育環境の充実**

1. 開かれた教育委員会を目指して - 教育委員会へのご声かけ

英語教育の強化

1. 小・中学校一貫の英語によるコミュニケーション能力の育成

2. 中学校卒業時に英検3級以上取得を目指す

2. 子どもたちのICT教育環境がさらに充実!

▲とだっ子の教育の向上を目指して (広報戸田市平成 30年5月1日号)

※エビデンス…客観的根拠